

別冊 2

第 5 事業年度

事業計画書

平成 29 年 4 月 1 日から
平成 30 年 3 月 31 日まで

公益社団法人 **北海道さけ・ます増殖事業協会**

〒060-0003

札幌市中央区北 3 条西 7 丁目（水産ビル 5 階）

TEL 011(271)5421 FAX 011(271)5423

E-mail : sakemasu@sirius.ocn.ne.jp

URL : <http://www.sake-masu.or.jp>

目 次

基本的な考え方	1
第1 事業の概要	2
公益目的事業	
1 さけ・ます増殖事業の調整、指導等の推進（公益目的事業1）	2
（1）ふ化放流計画原案の作成と事業の調整	2
（2）種卵の需給調整	2
（3）調査研究及びデータの収集	2
（4）増殖技術研修会等の開催	2
2 さけ・ます増殖事業等への支援（公益目的事業2）	3
（1）ふ化放流経費等に対する助成事業	3
（2）増殖施設整備等に対する助成事業	3
3 さけ・ます増殖事業の啓発、種卵等の提供（公益目的事業3）	4
（1）さけ・ます増殖事業の啓発	4
（2）さけ・ます種卵等の供与	4
4 さけ・ます種苗放流手法改良調査事業（公益目的事業4）	4
（1）放流手法改良調査	4
（2）放流手法検討協議会	4
（3）高品質親魚回帰効果調査	4
収益事業	
受精直後卵売却事業	5
その他の事業	5
1 環境保全対策事業	5
2 連携事業	5
3 その他	5
第2 平成29年度 会費等の額及び徴収方法	6
第3 平成29年度 収支予算書	8
第4 資金調達及び設備投資の見込み	13
資料 平成29年度 さけ・ます人工ふ化放流計画	14

事業計画の基本的考え方

平成 28 年度の本道の秋サケ総来遊量は約 2,600 万尾と、平成年代で最も低い水準となりました。また、8 月から相次いで台風が上陸、通過し、定置漁業の操業開始が遅れ、流木等の被害を受けるなど非常に厳しい状況でありましたが、最終的な水揚げ金額は 500 億円台をキープし、魚価が漁獲量の低迷を支えたかたちとなりました。

親魚及び種卵の確保については、多くの河川が増水、氾濫し、親魚の捕獲や蓄養ができない状況が長期間続き、一部の地区で採卵計画に大きな不足が見込まれたことから、関係機関のご指導、地区組織のご協力を得て、種卵の需給調整を行ったほか、漁業者が定置網の自主規制を行うなどして、全道的にほぼ計画どおりの卵が確保されたところで

す。

一方、近年のさけ・ます増殖事業を取り巻く厳しい情勢等を踏まえ、平成 29 年度以降の民間増殖事業体制のあり方等を検討するため、平成 27 年 7 月に第 4 期増殖体制検討協議会を設置しました。協議会では、支援事業のあり方、組織強化と経営基盤の安定化等について、積極的な協議・検討が行われ、平成 29 年 1 月 30 日に「検討結果報告書」として取りまとめられ、同日、本協会会長に答申されました。この報告書は、今年度以降 5 年間の取り組みの指針となるものであり、着実に取り組んでいかなければならないものと考えております。

今年は、第 4 期増殖体制の 1 年目であり、国、道、試験研究機関のご指導の下、各地区組織と連携・協力し、効率的な事業体制と増殖事業の安定化に向けて、基準事業費によるふ化放流経費への支援や、老朽化した増殖施設の改良、沿岸域の環境調査などへの支援を行うほか、国の「さけ・ます種苗放流手法改良調査事業」を活用してふ化放流技術の改良と資源回復に努めて参ります。また、健康な稚魚の育成等を踏まえた「ふ化放流計画原案」の作成、種卵不足時における地区組織間の需給調整などの増殖事業の調整・指導に取り組むとともに、増殖事業を広く国民に理解してもらうための広報・啓発、環境保全対策事業などに取り組んで参ります。

また、本協会は、昭和 42 年に創立以来、今年で 50 周年を迎えます。先人のたゆまぬご努力、そして関係の皆様のご指導、ご支援により北海道のさけ・ます増殖事業は着実に成果を挙げることができました。心より感謝を申し上げます。今後とも公益社団法人として、関係機関の指導のもと、各地区組織と連携・協力して公益目的事業の効率的・効果的な推進を図るとともに、法令等を遵守し適切な運営に努めて参る考えでありますので、一層のご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第 1 事 業 の 概 要

本協会は、第 4 期増殖体制検討協議会の検討結果を指針として、北海道内の民間増殖団体が実施するさけ・ます増殖事業（以下「増殖事業」という。）を効率的かつ安定的に推進するため、増殖事業の調整及び指導並びに事業支援などの総合的な調整を推進し、さけ・ます資源の維持増大に努め、もって国民への安全で安心な水産物の安定供給に寄与することとし、次の事業を実施する。

公益目的事業

1 さけ・ます増殖事業の調整、指導等の推進（公益目的事業 1）

北海道は、第 3 期北海道水産業・漁村振興推進計画に則りさけ資源 15 万トン（5,000 万尾）を造成する目標を立て、毎年度さけ・ます人工ふ化放流計画（以下「ふ化放流計画」という。）の策定等の増殖事業の統括管理を実施している。

本協会は、道がふ化放流計画を作成するに当たって、各地域の民間増殖団体（以下「地区組織」という。）との連絡、調整や計画に基づく増殖事業の効率的な実施に向け、調査研究や技術支援等の業務を行い、さけ・ます資源の安定的な造成に寄与する。

（ 1 ）ふ化放流計画原案の作成と事業の調整

全道の増殖事業を統括管理する北海道は、全道的にバランスのとれたふ化放流の実施や効率的・効果的で安定的な事業の推進などを柱とする「北海道さけ・ます人工ふ化放流計画中期策定方針」（平成 29 年度から平成 33 年度まで）を定め、これに基づき、毎年度のふ化放流計画を策定し、安定的かつ効率的な民間増殖事業を推進している。

本協会は、地区組織と連携して、中期策定方針に沿って、健康な稚魚の育成や海域の沿岸環境に合わせた稚魚の放流等を骨子とするふ化放流計画の原案を取りまとめ、道に提出する。

また、道が策定したふ化放流計画に基づいて、地区組織と調整を図りながら効率的・効果的な事業の推進に努める。

（ 2 ）種卵の需給調整

ふ化放流計画に基づく増殖事業を推進するため、北海道及び試験研究機関から構成する「種卵確保対策連絡会議」を開催し、地区の種卵に不足が生じないように、種卵確保対策等の指導や地区組織間の需給調整を行い、ふ化放流事業の円滑な実施を図る。

（ 3 ）調査研究及びデータの収集

さけ・ます増殖事業を効果的・効率的に推進するために、増殖事業を実施する上で問題となっている課題について、試験研究機関と協同して調査を実施するほか、各種データを収集する。

1）秋サケ資源低迷の原因を解明するためのモニタリング調査

昨年度に引き続き、日本海域並びに太平洋側の秋サケ資源低迷の原因を解明するため、資源解析に必要な生物情報や海洋環境に関するモニタリング調査をさけます・内水面水産試験場に委託して実施する。

2）増殖事業の効果に関する調査

増殖事業の効果的・効率的な実施を図るため、ふ化放流や沿岸環境等の評価・解析並びに北海道区水産研究所がふ化放流を行う河川環境の調査を北海道区水産研究所に委託し実施する。

（ 4 ）増殖技術研修会等の開催

北海道の民間ふ化場の技術職員を対象として、現場のニーズに対応した課題や新技術の開発等の情報提供を引き続き実施するほか、地区組織間の連携を深めるため、地区組織における技術開発等の情報提供の場を設けるなどの専門的な増殖技術研修会を開催し、技術職員のふ化放流技術レベルの向上等を図る。

また、さけ・ますに係る防疫体制強化に向け、授精前の卵の洗浄の必要性の啓蒙と開発された洗卵システムの普及を図る。

2 さけ・ます増殖事業等への支援（公益目的事業2）

近年、補助金等の縮減や漁獲高割負担金の減少並びに漁獲量の地域間格差の拡大など、地区組織の財政は一段と厳しさを増している。

本協会は、地区組織の自立体制を推進させるための支援や運営の安定化のための支援を積極的に進め、北海道における増殖事業の安定的な実施を図り、さけ・ます資源の安定的な造成に寄与する。

（1）ふ化放流経費等に対する助成事業

1）ふ化放流経費に対する助成

全道のさけの増殖事業を安定的に推進するため、道が策定したふ化放流計画に基づき、地区組織がさけの増殖事業を実施する取り組みに対し助成する。

なお、この助成は、予算額で12億円とするが、さけを漁獲している漁業者等の負担金を財源とすることから、漁獲金額が400億円を下回り、かつ5%以内の減額については、その割合に応じて助成額も減額する。

2）経営安定化等のための助成

地区の漁獲量、漁獲金額が大幅に落ち込み、漁獲高割負担金が極端に減少したことに伴い、ふ化放流計画に基づく事業の実施が困難となっている地区組織に対して、8千万円の資金の範囲内で経営安定化を図るために助成する。

（2）増殖施設整備等に対する助成事業

1）増殖施設の整備等への支援

さけ・ます資源の回復率を向上させ、増殖事業の安定を図ることを目的として、地区組織が行う施設の改良整備や試験調査事業に対して、対象事業費の1/2を事業実施主体に助成する。

2）種苗生産設備の整備等への支援（新規）

北海道は、飼育環境の向上により稚魚の健苗性を高める取組に対して支援する「秋サケ資源回復緊急対策事業（補助事業：平成29～32年度）」を開始する。

本協会は、この事業の補助対象機関として、地区組織が行う飼育環境の改善や健苗性向上のための種苗生産設備の整備、原虫症対策のための餌料用添加剤の導入等に対して、道の補助（補助率：1/4）を受けて、補助対象事業費の1/2を事業実施主体に助成する。

<平成29年度 さけ・ます増殖施設等に対する助成事業計画総括表>

（単位：千円）

事業名	事業内容	事業費	負担区分		
			道費	本協会	地区組織
さけ・ます増殖施設整備等支援事業	施設の改良整備 試験調査事業	46,200	-	23,100	23,100
秋サケ資源回復緊急対策事業	種苗生産設備の整備 餌料用添加剤（ハーブ） の導入	67,600	16,900	16,900	33,800
合計		113,800	16,900	40,000	56,900

実施箇所等については、当該年度に決定する。

3 さけ・ます増殖事業の啓発、種卵等の提供（公益目的事業3）

（1）さけ・ます増殖事業の啓発

日本において漁獲されるさけ・ます資源のほとんどは、増殖事業により造成され、天然で安心・安全な食品であり、国民が健康的な生活を行う上で重要な物資の一つである。

このさけ・ます資源を国民に安定的に供給していくためには、さけ・ますのふ化放流を継続的に実施していくことが重要であることから、このことを広く国民に理解を得るために広報や啓発活動を進める。

- ・食育用の教材として「秋サケブック」を作成し、全道の小学5年生に無償で配付する。
- ・また、サケ科学館等やさけ・ますを対象とした地域イベント等に配付する。
- ・ホームページの内容を充実し、国民の増殖事業等についての理解の促進を図る。

（2）さけ・ます種卵等の供与

文化伝承行事、社会・学校教育、試験研究、広報・展示等に使用するため、公共性のある団体や公的機関等からさけ・ます種卵及び親魚等の供与申請があった場合には、その必要性・妥当性を検討し、各地区組織と協力しその供与を行う。

4 さけ・ます種苗放流手法改良調査事業（公益目的事業4）

国が平成27年度から実施しているさけ・ます種苗放流手法改良調査事業に応募し、次の事業を実施する。

（1）放流手法改良調査（拡充）

減少傾向にあるさけ・ます資源を回復させるため、各地域に適したより効率的な放流手法を検討するために、稚魚放流の時期や体サイズを変えて放流することや後期回帰資源に着目した放流など、様々な条件設定した試験放流群を各地区組織が生産し、それらの種苗を購入放流する。

（2）放流手法検討協議会（地域協議会）

放流手法改良調査の円滑かつ的確な実施を図るため、地域協議会（北海道）を開催し、補助事業の実施に係る連絡調整、放流手法改良のための情報交換等を実施する。

（3）高品質親魚回帰効果調査（本州鮭鱒増殖振興会との共同調査）

高品質なさけ・ます資源の放流適地を把握するため、ブランド魚などの高品質なサケ親魚の耳石を調べ、標識魚の放流地域を特定する。

<平成29年度 さけ・ます種苗放流手法改良調査事業実施計画総括表>

（単位：千円）

事業種目	事業内訳	総事業費	補助事業に要する経費	うち国庫補助金	備考
放流手法改良調査	・サケ種苗の購入放流 ・施標経費等	160,140 18,974	160,140 18,974	80,070 18,974	耳石温度標識の施標経費及びその稚魚の購入経費
放流手法検討協議会	・地域協議会（北海道）の開催	1,150	1,150	1,150	地域協議会（北海道）の開催経費
高品質親魚回帰効果調査	・親魚頭部購入等	6,320	6,320	6,320	ブランド魚などの高品質な親魚頭部の購入経費等
計		186,584	186,584	106,514	

収益事業

受精直後卵売却事業

北海道区水産研究所が行う個体群維持のためのふ化放流に必要なサケ・マスの受精卵を各地区組織と協力して納入する。

なお、この売却収入は、さけ・ます増殖事業への支援事業等に充てる。

その他の事業

1 環境保全対策事業

1) さけ・ます増殖事業を安定的に推進していくためには、河川環境の保全が重要であることから、「北海道漁業環境保全対策本部」に参画して、河川環境への負荷軽減や酪農廃棄物等による河川汚濁の実態把握と対策の促進に努める。

2) (財)海と渚環境美化・油濁対策機構の事業に参加するなど、河川から渚に至る水質環境の保全に努める。

2 連携事業

水産庁が開催している「秋さけ資源管理調整協議会」の決定を受け、本州日本海地域の民間増殖団体が実施しているさけの増殖事業の取り組みに資金協力する。

3 その他

(1) 国・道への要請活動

さけ・ます増殖事業を安定的に実施するため、国費・道費補助金の確保等について、関係機関に対し強力に要請する。

また、河川流水及び河川敷地占用料の減免について、今後とも継続されるよう北海道に要請する。

(2) 全国組織への参画

本州地域の増殖団体との連携を強化し、北日本のさけ・ます資源の回復と回帰率の向上等を図るため、本年7月頃に設立される全国組織に参画する。

(3) 道増協創立50周年記念行事

本協会が創立50周年を迎えることから、50年誌を発刊するとともに、6月14日に記念式典及び祝賀会を開催する。

第2 平成29年度 会費等の額及び徴収方法

1 会費の内訳

(1) 正会員の会費(会費収入)

金額 1,600千円 (160会員 × 10,000円 = 1,600千円)

本協会の正会員である地区組織、市町村及び漁業協同組合並びに系統団体を対象とし、1正会員当たり年額10,000円の負担を願います。

(2) 賛助会員の会費(会費収入)

本協会の賛助会員は、1賛助会員当たり年額3,000円の負担を願います。

2 負担金の内訳

(1) さけ漁獲高割負担金(負担金収入)

金額 1,209,000千円

全道のさけを漁獲している漁業者等からさけの漁獲金額に応じ12億900万円を負担願います。

(2) 親魚等売却高割負担金(負担金収入)

金額 60,000千円 (9地区組織)

河川において、さけ親魚を捕獲し売却収入がある地区組織は、その売却収入に応じ総額6,000万円を負担願います。

事業河川におけるさけ親魚等売却収入(消費税及び販売経費等を除く。)に一定率を乗じて積算。

(3) 増殖施設整備等助成事業負担金(負担金収入)

金額 30,000千円 (9地区組織)

さけの漁獲金額に応じ総額3,000万円を負担願います。

(4) 放流手法改良調査事業負担金(負担金収入)

金額 80,070千円 (9地区組織)

さけ・ます種苗放流改良調査事業を実施している増殖団体は、稚魚購入収入に応じて総額8,007万円を負担願います。

(5) 全国組織負担金(負担金収入)

金額 5,950千円 (9地区組織)

さけ・ます種苗放流改良調査事業を実施している増殖団体は、稚魚購入収入に応じて総額595万円を負担願います。

3 会費等の徴収方法

- (1) 会 費 ... 1 正会員当たり 10,000 円とする。納入時期については、9 月末日までとし、本協会が指定する口座に納入する。
1 賛助会員当たり 3,000 円とする。納入時期については、本協会が指定する時期に、所定の口座に納入する。
- (2) さけ漁獲高割負担金 ... 地区組織は 9 月末日の漁獲金額に対し、3.9% を乗じた負担金を 10 月 19 日までにさけを漁獲している漁業者等から徴収し納入する。又、12 月末日までに最終漁獲金額を本協会に報告し、全道の漁獲高割負担金の拠出割合確定後において平成 30 年 1 月末日までに納入する。
- (3) 親魚等売却高割負担金 ... 本協会は、全道の事業河川におけるさけ親魚等売却代を各地区組織から、平成 30 年 1 月末日までに報告を受ける。地区組織は、親魚等売却高割負担金の拠出割合確定後において平成 30 年 2 月末日までに納入する。
- (4) 増殖施設整備等助成事業負担金 ... 地区組織は、全道の漁獲高割負担金の拠出割合確定後において平成 30 年 2 月末日までに納入する。
- (5) 放流手法改良調査事業負担金
及び全国組織負担金 ... 地区組織は、放流手法改良調査事業負担金の拠出額確定後において平成 30 年 2 月末日までに納入する。

第4 資金調達及び設備投資の見込みについて

(1) 資金調達の見込み

当期中における借り入れ予定の有無 有

借入先	金額	使途
北海道信用漁業協同組合 連合会	100,000,000 円	種苗放流手法改良事業補助金の一部立 替払分

(2) 設備投資の見込み

設備投資の予定の有無 無

(資料) 平成29年度 さけ・ます人工ふ化放流計画

① 平成29年度 サケ人工ふ化放流計画

海 区	地 区	捕 獲 数 (尾)	採 卵 数 (千粒)	北水研への 供給卵数 (千粒)	稚 魚 生 産 尾 数(千尾)		稚魚放流数 (千尾)
					北水研	民 間	
オホーツク	東 部	136,100	115,700	12,700	11,600	84,400	96,000
	中 部	119,400	102,300	0	0	84,500	84,500
	西 部	84,800	83,000	12,600	11,100	49,700	56,300
	海区計	340,300	301,000	25,300	22,700	218,600	236,800
日 本 海	北 部	50,400	53,000	5,600	5,000	49,200	59,500
	中 部	86,200	82,200	34,000	30,000	7,000	50,500
	南 部	64,600	65,700	0	0	98,400	87,400
	海区計	201,200	200,900	39,600	35,000	154,600	197,400
根 室	北 部	146,900	129,000	9,000	8,000	100,000	108,000
	南 部	112,900	98,800	28,000	25,000	59,000	84,000
	海区計	259,800	227,800	37,000	33,000	159,000	192,000
えりも以東	東 部	111,300	102,260	11,000	9,100	84,300	93,400
	西 部	167,000	153,270	17,900	15,300	108,200	123,500
	海区計	278,300	255,530	28,900	24,400	192,500	216,900
えりも以西	日 高	56,500	57,240	7,000	6,400	43,300	49,700
	胆 振	33,700	33,900	0	0	28,500	28,500
	噴火湾	55,000	57,550	8,300	7,500	38,900	48,800
	道 南	76,000	81,750	0	0	78,300	72,600
	海区計	221,200	230,440	15,300	13,900	189,000	199,600
全 道 計	1,300,800	1,215,670	146,100	129,000	913,700	1,042,700	

② 平成29年度 カラフトマス人工ふ化放流計画

海 区	地 区	捕 獲 数 (尾)	採 卵 数 (千粒)	北水研への 供給卵数 (千粒)	稚 魚 生 産 尾 数(千尾)		稚魚放流数 (千尾)
					北水研	民 間	
オホーツク	東 部	138,200	60,800	1,300	1,000	48,500	48,500
	中 部	84,400	37,700	0	0	29,200	30,200
	西 部	45,000	23,000	2,000	1,700	15,500	16,200
	海区計	267,600	121,500	3,300	2,700	93,200	94,900
日本海	北 部	0	0	0	0	1,000	2,000
	海区計	0	0	0	0	1,000	2,000
根 室	北 部	61,300	26,200	4,800	4,500	17,000	21,500
	南 部	58,300	25,100	0	0	18,000	20,000
	海区計	119,600	51,300	4,800	4,500	35,000	41,500
えりも以東	東 部	0	0	0	0	2,000	0
	海区計	0	0	0	0	2,000	0
全 道 計		387,200	172,800	8,100	7,200	131,200	138,400

③ 平成29年度 サクラマス人工ふ化放流計画

海 区	地 区	使用 親魚数 (尾)	採 卵 数 (千粒)	北水研への 供給卵数 (千粒)	稚魚生産尾数(千尾)			稚魚 放流数 (千尾)	幼魚 放流数 (千尾)
					北水研	道	民間		
オホーツク	東 部	1,300	720	720	650	0	0	500	100
	西 部	1,300	580	580	500	0	0	500	0
	海区計	2,600	1,300	1,300	1,150	0	0	1,000	100
日本海	中 部	250	300	130	110	0	0	96	271
	南 部	2,290	2,920	1,090	960	170	1,194	1,579	760
	海区計	2,540	3,220	1,220	1,070	170	1,194	1,675	1,031
根 室	北 部	510	390	390	340	0	0	170	130
	海区計	510	390	390	340	0	0	170	130
えりも以西	噴火湾	75	110	300	260	0	100	100	0
	道 南	0	0	0	0	0	0	0	0
	海区計	75	110	300	260	0	100	100	0
全 道 計		5,725	5,020	3,210	2,820	170	1,294	2,945	1,261

④ 平成29年度 ベニサケ人工ふ化放流計画

海 区	地 区	捕 獲 数 (尾)	採 卵 数 (千粒)	北水研への 供給卵数 (千粒)	北水研 稚魚生産尾数 (千尾)	稚魚 放流数 (千尾)	幼魚 放流数 (千尾)
	海区計	60	60	60	50	50	0
えりも以西	日 高	150	150	150	130	0	50
	胆 振	0	0	0	0	0	50
	海区計	150	150	150	130	0	100
全 道 計		210	210	210	180	50	100

⑤ 魚種別総括表

魚 種	捕 獲 数 (尾)	採 卵 数 (千粒)	北水研への 供給卵数 (千粒)	稚魚生産尾数(千尾)			稚魚 放流数 (千尾)	幼魚 放流数 (千尾)
				北水研	道	民間		
サケ	1,300,800	1,215,670	146,100	129,000	0	913,700	1,042,700	0
カラフトマス	387,200	172,800	8,100	7,200	0	131,200	138,400	0
サクラマス	5,725	5,020	3,210	2,820	170	1,294	2,945	1,261
ベニザケ	210	210	210	180	0	0	50	100
全魚種計	1,693,935	1,393,700	157,620	139,200	170	1,046,194	1,184,095	1,361